

\\おかげさまで\\ 谷中霊園は 150周年

谷中霊園は明治7年9月1日(1874年)に開設され、令和6年9月1日(2024年)に150周年を迎えました。この記念の一年には、さまざまな記念事業や催しが行われました。本冊子は、その一年間の歩みを、一冊にまとめたものです。150年の歴史と、皆さまに支えられた記念事業の数々を、どうぞお手に取ってご覧下さい。



霊園 150 周年記念イベントの軌跡

令和 5 年度(2023 年)

6 月～ イベント資料・写真集め開始

10 月 HP・X(旧ツイッター)で「古い写真を集めています」掲載

令和 6 年度(2024 年)

7 月 「区部四霊園巡りスタンプラリー」開催

9 月 ギャラリー展第 1 期展示

9 月 「霊園使用許可証で見る谷中霊園のあゆみ」展示

10 月 ガーデン設置（乙 7 側に 2 ヶ所設置）

10 月～翌 4 月 台東区立中央図書館谷中分室

「さんぽ基地連動特集 谷中霊園パネル展」開催

11 月 30 日 職員による 霊園ガイドツアー開催

12 月 7 日 第 1 回クリーンアップキャンペーン「大江戸清掃隊」実施

令和 7 年(2025 年)

1 月 ギャラリー展第 2 期 「思い出写真 谷中霊園」展示

2 月 8 日 第 2 回クリーンアップキャンペーン 「大江戸清掃隊」実施



ご協力いただいた皆様

谷中霊園 150 周年記念事業の実施にあたり、下記の皆様より多大なるご支援とご協力を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。(敬称略)

■ ご協力店舗・団体

- * 坂本家
- * 嵯峨の屋
- * 花家 (HANAYA)
- * 谷中せんべい信泉堂

■ 個人協力者

- * 二村 高史 (写真家)

■ 資料提供・情報協力

- * 国立国会図書館デジタルコレクション
- * 台東区立図書館デジタルアーカイブ
- * 台東区立図書館 谷中分室
- * 台東区公園課
- * 台東区環境課 町の美化係 (大江戸清掃隊)
- * 下谷警察 天王寺駐在所
- * 荒川区観光振興課
- * 東京都公園協会 みどりの図書館 東京グリーンアーカイブ



150 周年記念企画「ギャラリー展」

開設 150 周年 History

このパネルには、台東区立図書館デジタルアーカイブに収録された定点写真を使用しています。1 枚目の白黒写真は昭和 49 年（1974 年）に撮影されたもの、2 枚目のカラー写真は令和 6 年（2024 年）に撮影されたものです。後者には、昭和 59 年 3 月に 2 階建てへ改築された駐在所の姿が写っています。長い年月のあいだに姿を変えてきた駐在所は、霊園の移りゆく時代を象徴する存在といえるでしょう。一方、手前に立つ石碑は、変わらずにそこにあり続ける「不変の象徴」として、対照的な印象を与えています。



谷中霊園のはじまり



国立国会図書館デジタルコレクションに所蔵されている『江戸名所図会（天保 7 年・1837 年）』の一図をパネルとして使用しています。この絵には、現在は失われた五重塔が中央に大きく描かれ、当時の谷中の景観を伝える貴重な史料となっています。また、当時の感応寺（現・天王寺）では、いわゆる「富くじ」（現在の宝くじ）が人気を集め、多くの江戸っ子でにぎわいました。感応寺からまっすぐにのびる参道にはサクラが多く植えられ、その景観は現在まで受け継がれ、「さくら通り」として多くの人々に親しまれています。

150 周年記念企画「ギャラリー展」

谷中五重塔



このパネルに掲載されている、古き日の五重塔は『東京百景 谷中五重塔』として知られるものです。幸田露伴の小説『五重塔』でも有名なこの塔は、嘉永 12 年（1644 年）に創建され、昭和 32 年（1957 年）に焼失するまで、およそ 300 年にわたり谷中の象徴として人々に親しまれてきました。パネルには、当時の姿を描いた図とともに、炎上時の記録写真も掲載しています。今は失われた五重塔の歴史を、ぜひ感じてみてください。

谷中霊園のさくら

谷中霊園には、国立国会図書館デジタルコレクションに収められた『江戸名勝図会 天王寺』に描かれているように、昔からたくさんのサクラが植えられてきました。このパネルでは、名所としてのにぎわいはもちろん、サクラのそばで暮らしてきた方々の、ほっと心があたたかくなる「サクラの思い出」もご紹介しています。谷中のサクラとともに育まれてきた人々の日々や、そこに息づくやさしい記憶を少しでも感じていただけたらうれしく思います。そしてこれからも、谷中のサクラが変わらず咲き続け、次の世代へつなげていくよう、大切に守っていきます。



150 周年記念ギャラリー 150 周年記念企画
第 2 期 「思い出写真 谷中霊園」

《JR 日暮里駅西口付近》



昭和初期 大正（谷中）せんべい店舗前
写真提供 谷中せんべい信泉堂



昭和初期 御殿坂付近
写真提供 花家

《谷中 4・6 丁目付近》



昭和 63 年 瑞臨時門前
台東区立図書館デジタルアーカイブより



昭和 57 年 谷中 6 丁目
写真提供 二村 高史 様

150 周年の開催が決まったとき、皆さんの思い出の中にある霊園や近隣の風景を、あらためて振り返ることができたら素敵だなと思い、写真展を企画しました。写真を集める過程では、撮影された当時のお話を伺う機会もあり、霊園が日々の暮らしの中に自然と溶け込んでいる存在なのだと、改めて感じました。



150 周年記念ギャラリー 150 周年記念企画
第 2 期 「思い出写真 谷中霊園」

《谷中霊園》



昭和 63 年 天王寺五重塔前駐在所
台東区立図書館デジタルアーカイブより



平成 8 年 天王寺五重塔前駐在所
台東区立図書館デジタルアーカイブより



写 昭 和 初 期 五 重 塔
写 真 提 供 天 王 寺 駐 在 所



昭和 50 年代 乙 2-6 雪景色
写 真 提 供 坂 本 家

令和 5 年 6 月から SNS やチラシを通じて古い写真を募集したところ、近隣の皆様にご協力いただきました。お寄せいただいた写真は、《谷中霊園》・《JR 日暮里駅西口付近》
《谷中 4 丁目 6 丁目付近》の 3 か所に分けて展示し、「思い出写真 谷中霊園」として開催することができました。展示では懐かしい写真を振り返る場となり、来園者の皆さまからも「地域の歴史を感じられた」「当時を思い出して懐かしかった」といった声を頂きました。

『**霊園使用許可証**でみる**一五〇年**と**谷中霊園**の**あゆみ**』

谷中霊園の歴史と主な出来事

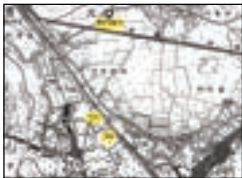
明治元年(1868)	7月	「江戸」を「東京」と改称、東京府を設置
明治6年(1873)	9月	「明治」と改元
明治7年(1874)	7月	火葬禁止令布告
明治8年(1875)	9月	谷中天王寺の寺域の一部を東京府が引き継ぎ、谷中墓地として開設
明治9年(1876)	東京会議所(東京商工会議所の前身)の管轄となる。	
明治8年(1875)	5月	火葬禁止令解除
明治12年(1879)	5月	東京会議所は解散し、谷中墓地の事業は東京府へ移管
明治14年(1881)	墓地の管理は所在地の区務所区役所の前身)の管轄となる。	
明治12年(1879)	9月	コレラが大流行、死者は10万人に及び、火葬が推奨された。
明治17年(1884)	6月	東京大学医学部で解剖された遺体の霊を慰めるために「千人塚」が谷中天王寺に建てられる。
明治17年(1884)	10月	「墓地及埋葬取締規則」が公布され、死体は死後24時間経過しなければ埋火葬できないと定められた。
明治19年(1886)	10月	上野公園に葬式用通路が作られ、谷中墓地へ行く際に迂回する不便が解消された。
明治20年(1887)	6月	東京博善社の創設者木村莊平により日暮里火葬場(町屋斎場の前身)開設(〜明治37年)
明治22年(1889)	5月	東京市制実施により東京市に引き継がれ、谷中共葬墓地と改め、下谷区役所の管理となる。
明治24年(1891)	12月	東京市会のマーク決定
明治26年(1893)	11月	幸田露伴小説『五重塔』の連載を開始(〜明治25年3月)
明治27年(1894)	4月	谷中墓地の被葬者を供養するための寺院功德林寺創建
明治37年(1904)	8月	日清戦争始まる。(〜1895)
明治38年(1905)	2月	日露戦争始まる。(〜1905)
明治41年(1908)	4月	日暮里駅開設
明治45年(1912)	7月	天王者、五重塔を東京市に寄贈
明治45年(1912)	7月	明治天皇崩御



明治38年9月15日
東京市下谷区役所
発行の墓地使用券
墨で手書きされて
おり、緑取りは
雷紋(稲妻紋)



ウィキペディア
太陽を中心に6方に光が放たれて
いる様子を表現し、日本の中心
としての東京を象徴している。
昭和18年、東京都制施行に際し、
東京都の紋章とされた。



明治30年の西日暮里付近地図
「東日暮里六丁目日本町会創立七十四年記念誌」(令和3年11月発行)より



現在、日暮里火葬場跡地にある
興楽地藏尊(西日暮里1丁目付近)

大正元年(1912)	7月	「大正」に改元
大正3年(1914)	7月	第一次世界大戦勃発(〜1918)
大正12年(1923)	11月	川上音二郎碑が港区高輪の泉岳寺から谷中天王寺へ移転
大正14年(1925)	9月	関東大震災
大正15年(1926)	12月	東京環状線(山手線)運転開始
大正15年(1926)	12月	大正天皇崩御
昭和元年(1926)	12月	「昭和」に改元
昭和6年(1931)	11月	澁澤榮一永眠(91歳)
昭和10年(1935)	5月	谷中霊園と改称
昭和14年(1939)	9月	第二次世界大戦開戦(〜1945)
昭和18年(1943)	7月	東京府と東京市は統合され、東京都となる。
昭和20年(1945)	谷中銀座商店街が自然発生的に誕生	
昭和23年(1948)	5月	「墓地、埋葬等に関する法律」制定
昭和27年(1952)	8月	従来、二種に位置づけられていた区域が 全て一種と変更される。 (例)二種甲12号〜16号↓一種甲新12号〜16号
昭和32年(1957)	7月	谷中五重塔放火心中事件で焼失
昭和34年(1959)	4月	塚越正司氏がサクラの苗四百本を寄贈
昭和35年(1960)	8月	墓所再貸付停止
昭和39年(1964)	10月	東京オリンピック開催
昭和50年(1975)	1月	日本の火葬率が85%を超える。
昭和64年(1989)	1月	昭和天皇崩御
平成元年(1989)	1月	「平成」に改元
平成3年(1991)	6月	東京都のシンボルマークとして制定
平成19年(2007)	10月	NPO法人「葬送の自由をすすめる会」が散骨実施
平成22年(2010)	3月	谷中の街並みが「美しい日本の歴史的風土一〇〇選」に選出
平成23年(2011)	3月	第1区立体埋蔵施設竣工
平成24年(2012)	2月	東日本大震災発生
平成25年(2013)	5月	第2区立体埋蔵施設竣工
平成26年(2014)	6月	東京スカイツリー開業
平成27年(2015)	6月	都営霊園初の樹林墓地小平霊園)の募集開始
平成28年(2016)	3月	第3区立体埋蔵施設竣工
平成29年(2017)	6月	澁澤榮一墓所タブノキ移植実施
平成30年(2018)	2月	第4区立体埋蔵施設竣工
平成31年(2019)	6月	ミシラングリーンガイドで二つ星を獲得
平成31年(2019)	2月	火葬率が99.9%に達する。
令和元年(2019)	2月	第5区立体埋蔵施設竣工
令和2年(2020)	7月	小池百合子氏、都知事に当選
令和3年(2021)	4月	新元号「令和」が発表される。
令和4年(2022)	5月	「令和」に改元
令和5年(2023)	4月	新型コロナウイルス感染症拡大、東京など7都道府県に緊急事態宣言発出(4月7日〜5月25日)
令和6年(2024)	1月	新型コロナウイルスの猛威が続く。
令和6年(2024)	2月	澁澤榮一墓所の返還跡地に「中央東広場」が完成
令和6年(2024)	7月	東京2020オリンピック大会開催(7月24日〜8月9日)
令和6年(2024)	8月	東京2020パラリンピック大会開催(8月24〜9月5日)
令和6年(2024)	10月	緊急事態宣言とまん延防止等重点措置をすべて解除(1日)
令和6年(2024)	7月	甲5号、乙13号に小広場竣工
令和6年(2024)	8月	霊園管理料の延滞金徴収開始(令和5年度分より)
令和6年(2024)	7月	新紙幣発行
令和6年(2024)	9月	(一)万円札 澁澤榮一、五千円札 津田梅子、千円札 北里柴三郎)
令和6年(2024)	9月	谷中霊園開設一五〇年



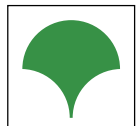
令和の使用許可証
文字が大きく、
見やすくなった。



平成24年12月14日東京都副知事発行の
使用許可証
石原慎太郎氏が次期衆議院選挙に立候補
するため任期途中で東京都知事を辞任
都知事不在のため副知事が職務を代行



平成3年12月20日発行の霊園使用許可証
使用料の記入が省略され、氏名等は印刷
鮮やかな緑のシンボルマーク入り



“TOKYO”の頭文字で
あるアルファベットの
「T」を圖案化したもの
「イチョウマーク」と
通称されるが誤解



昭和44年2月18日発行の霊園使用許可証
機型から縦型となり、飾り枠は上部のみ
氏名等は手書き



昭和25年7月14日東京都知事発行の霊園使用許可証
「墓地」から「霊園」となり、「族籍」廃止。摘要欄に「使用者が
東京都外居住者につき所定使用料の2割増とする」とある。



昭和6年11月14日東京市下谷区長発行の
墓地使用許可証
「族籍」欄があり、上部に東京市会のマーク



昭和12年4月13日東京市下谷区長発行の
墓地使用許可証
東京市会のマークに加え、植物の飾り枠付き

7月 区部四霊園巡りスタンプラリー



7月より、150周年記念イベントの第一弾として、雑司ヶ谷・青山・染井・谷中の四霊園合同企画「区部四霊園巡りスタンプラリー」を開催しました。

各霊園に設置されたスタンプは、それぞれの特色を生かして作られ、谷中霊園のスタンプには、園内を象徴するタブの木と、春に可憐な花を咲かせるニリンソウがモチーフとして描かれました。スタンプをすべて集めると記念品を贈呈するこの企画には、霊園を愛する方々をはじめ、夏休み期間中には多くの子どもたちにもご参加いただきました。当初は10月末までの開催予定でしたが、ご好評につき翌年3月末まで期間を延長し、たくさんの方に四霊園を巡っていただく機会となりました。



記念品として、栽培キットをお渡しいたしました。
種類はワイルドストロベリーとレモンバームの
2種類です。

9月「霊園使用許可証で見る谷中霊園のあゆみ」



管理所内壁面に、職員が編集した「霊園使用許可証で見る谷中霊園のあゆみ」を展示しました。開園当初から現在に至るまでの歩みを、歴代の霊園使用許可証を通して年表形式で紹介しています。普段目にすることが少ない古い使用許可証も公開しました。

9月 第1期 ギャラリー展

令和7年1月 第2期 思い出写真 谷中霊園



第1期ギャラリー展では、集めた貴重な資料をもとに、谷中霊園の成り立ちや歴史、五重塔、そして谷中のサクラについて紹介する展示を行いました。初めての試みでしたが、多くの来園者が足をとめ、熱心にご覧くださいました。続く第2期「思い出写真 谷中霊園」展では、ご協力いただいた写真を、〈JR 日暮里駅西口付近〉〈谷中霊園〉〈谷中4・6丁目付近〉のエリアごとに展示しました。地域にゆかりのある方々からは「懐かしい」「こんな時代もあったね」といった声も寄せられ、展示を楽しんでいただくことができました。谷中の街と霊園の歩みを、訪れる皆さまと一緒に振り返り、未来へつないでいくそんな思いを込めて開催したギャラリー展でした。

10 月

150 周年記念ガーデン



150 周年を記念して、園内 2 か所に小さな花壇をつくりました。
ストックやビオラ、ヤグルマギクなど、色とりどりの花で円形や「150」の形を描
いています。花壇の手入れは、近くの園児たちも参加してくれ、みんなで大切に
育てました。



10月 台東区立中央図書館谷中分室 「さんぽ基地連動特集 谷中霊園パネル展」



台東区立図書館谷中分室の特集コーナー「谷中さんぽ基地」では、令和6年10月から令和7年4月まで「さんぽ基地連動特集 谷中霊園パネル展」を開催していただきました。霊園に眠る著名人の著書紹介や、霊園の歴史を紹介するパネルなど、多彩な展示をご用意いただき、多くの方にご覧いただきました。ほかの施設との連動企画は今回が初めての試みでしたが、これからの霊園の可能性を発見できた企画でした。

12月，翌2月 クリーンアップキャンペーン大江戸清掃隊



第1回ぎんなん通り清掃



第2回上野桜木通り清掃

150周年を記念して、私たちは地域の皆さまと清掃イベントを開催しました。台東区が主催する、「まちをきれいにしたい その気持ちを行動に」という思いで活動している「大江戸清掃隊」に登録して参加しました。清掃イベント第1回は12月にぎんなん通りを中心に落ち葉やゴミを丁寧に拾い集めました。翌年2月の第2回では、上野桜木通りを清掃し冬の静かな霊園にささやかながら温かい時間が流れました。「霊園を大切に思う気持ちを形にしたい」そんな皆さまの思いが集まり、笑顔があふれる心地よい清掃のひとときとなりました。150周年の記念事業は幕を閉じましたが、この清掃活動はこれからも続いていきます。

11月 150周年記念 「職員による 霊園ガイドツアー」開催



晩秋の穏やかな天候に恵まれた週末、当園では職員による初のガイドツアーを実施いたしました。事前にお申し込みいただいた6名の参加者の皆さまとともに、著名人の墓所や特色ある墓所を巡り、その歴史的背景やゆかりの人物についてご紹介いたしました。参加者の皆さまからは、「詳しい説明を聞くことができ、有意義だった」「ぜひ継続して開催してほしい」といったご感想を頂戴し、好評のうちに終了いたしました。

編集後記

本リーフレットをまとめるにあたり、150年にわたって積み重ねられてきた歩みの重みと、その節目に関わらせていただいた責任の大きさを、何度も実感しました。展示やイベントの企画から完成に至るまでの道のりは、すべてが初めての経験であり、手探りの連続でした。不安や戸惑いを抱えながらも、多くの方々の助言と温かな支えにより、一つ一つ形にしていくことができました。

長い歴史の中ではほんの一瞬に過ぎませんが、この150周年という節目に込められた想いや記憶の一端を、次の時代へつなぐ役割を担えたことを、心からありがたく思っています。本展示と本リーフレットが、これまでの歩みに思いを巡らせるきっかけとなれば幸いです。

谷中霊園管理所 職員一同



